

2005年6月30日

人間科学研究科長 殿

## 麦倉 哲氏 博士学位申請論文審査報告書

麦倉 哲氏の学位申請論文を下記の審査委員会は、人間科学研究科の委嘱を受け審査してきましたが、2005年6月22日に審査を終了しましたので、ここにその結果をご報告します。

1. 申請者氏名 麦倉 哲
2. 論文題名 現代日本におけるホームレス自立支援システムの研究
3. 本文

### (1) 本論文の構成

本論文は、現代日本におけるホームレス自立支援システムの研究である。この研究では、現代日本においてホームレス問題が深刻化するに至った過程と現状を実証的に研究し、その実態を解明した上で、社会問題としてのホームレス問題を解決する方法を、ホームレスの自立支援という方策の体系化というかたちで提案している。この提案の前提には、ホームレスのニーズ調査とソーシャルワークが組み合わさることによって、民間セクターも含めた多様な主体が協働する地域福祉ネットワークをベースに置いた日常的な実践があり、その積み重ねの上に自立支援システムを構築している事実が存在する。

本論文は問題の所在を概略する序論と本論の7部(第1部都市貧困・ホームレス・都市問題、第2部ホームレス実態調査・支援ニーズ調査、第3部ボランティアによるホームレス支援、第4部自立支援に取り組むNPOのケーススタディ、第5部行政の自立支援システム、第6部ホームレス自立支援システム論、第7部元ホームレス自立支援のケーススタディ)18章と結論および文献目録から構成されている。このような構成をとることによってホームレス問題の全貌に迫ろうとしている。

### (2) 本論文の概要

本論文では第一に、社会的な取り組みを必要とする対象である貧困について、貧困とは何かと問いかけ、貧困とホームレスの関係を論じている。

第二に、事実を把握するための調査を重視しているところに本論文の一大特徴がある。社会調査という取り組みがあればこそ、問題の実態が解明できるはずである。今日の事態

の進行は、ある意味では実態の把握が遅れたからであるといってもよい。調査研究の目的は単に実態を解明するにとどまらず、対策を提案する基礎資料を得るにもある。そういう意味からも、社会調査はホームレス自立支援に不可欠である。ホームレス調査にはもちろん、量的な調査も質的な調査もある。その結果は、本論文の中にたくさんの統計表や分析図、ケーススタディとして採用されている。

第三に、本論文では、ボランティアや支援団体、さらには支援に関わる NPO の取り組みに焦点が当てられている。ホームレス支援・自立支援にいち早く取り組みだしたのはこうしたボランティアや市民セクターであるということをしつくりと論及し、自立支援システムの発展の歴史の中にきちんと評価し位置づけている。

第四に、これらの支援団体の多くは、地方自治体との業務提携や連携のもとに事業を開始しつつ、その事業を多様なかたちで展開してきた。こうした経過の中で、新たに参入してきた NPO も事業提携に名乗りを上げた。こうした推移に注目することは自立支援システムの発展史を辿る上で重要な考察である。

第五に、ホームレス問題が深刻になるにつれて、遅ればせながら行政が自立支援システムの体系化に本格的な取り組みをするようになった。行政が行政側だけの自己完結型というスタイルでホームレス自立支援対策の全般に取り組むことは、この問題の流動的で多様なあり方からして事実上困難であった。ボランティア、NPO、その他民間事業者など多様なセクターや主体との連携において、行政は施策展開を図ることを余儀なくされたといえる。行政がこうした段階で試行錯誤をしていた時、申請者は、いくつもの参与観察的な経験をする事となった。そうした行動と経験の成果のもとに、官製の支援システムのあり方を批判的に再検討している。

第六に、こうした全ての流れや歴史的経過を踏まえて、申請者は自立支援システムを論じている。現在までの推移、現状の評価、今後の課題、そして諸外国との比較も視野に入れながら、オリジナルな自立支援システムのあるべき姿を詳細に論述している。

そして最後に、ホームレス自立支援の成否の鍵はどこにあるかを明示するために、一つの事例を克明に追跡研究しその成果をもとに突っ込んだ検討を行っている。その際、ここでは、ソーシャルワークのあり方、ソーシャル・インクルージョン、インテグレーション、まちづくり、地域福祉ネットワークを視野に入れた継続的な支援の実践例を考察し、あわせて自立支援のあり方を論ずることを通して申請者が提唱する自立支援システムの有効性、有益性を検証している。

ホームレス自立支援システムの構築には、多様な社会的資源が調達され動員されなければならない。行政はボランティア、支援団体、NPO などの多様な担い手とパートナーシップを形成し連携しつつ、地域社会内の社会的資源を開発し、地域福祉ネットワークを充実させていくとともに、自立支援システムを構築することによってその付託に応えることができる。ホームレス自立支援の課題からみえてきたことは、孤立化が進む社会の中で社会的つなぎ役としての官民の多様な担い手のソーシャルワーカーが果たす役割の重さであり、

彼らが地域社会の中で継続的に実践することへの期待の高まりである。

### (3) 本論文の評価

路上生活者の存在はいつの時代にあつたにしても、「豊かな社会」のホームレスはその時代と社会の矛盾を拡大してみせつけている。ゆえに、本論文が課題とするホームレスは時代を鮮やかに映し出している。では何をどのように映し出しているかを一步前に出て受け止めて正視し、いかに研究するかとなると、おのずからそこには研究者の姿勢と分析力が鋭く問われることになる。

本論文全体を通して評価できる特徴は、このような時代相の濃い課題を直視し、参与観察し、対象に一定の距離をおいて分析に取り組んでいるところに胚胎している。これらの特徴は18の章のどのページにも刻まれていて、申請者は徹頭徹尾ホームレスが置かれている現実から目をそらさずに見届けた一部始終を記述の中に取り込んでいる。しかも、いくつかの角度から考察を行っているその目線は、対象と同じ高さを維持している研究姿勢も注目に値する。

本論文が採用している考察の特徴は第一に、景気変動、人口構成の変化、家族関係の変化や地域社会の変移に歴史的に迫り、豊かな社会の貧困の存在形態がホームレスという表現形となっている見取図を見事に記述して、社会問題としてのホームレスを広角的に俯瞰できるようになっている。この方法は貧困問題研究上に残る数々の業績につながっているゆえに、古典の現代化の好例である。

第二の特徴は、参与観察を主要な手続きとしているゆえに、その参与観察はケーススタディとして実に興味深い物語をつむぎだし、提供しているところにある。この特徴だけでも学術上有益な貢献であると評価できる。ケースのそれぞれがそれぞれの人生を原寸大で示しているところに、比類のない独自性をもっている。人生上のちょっとしたつまずきが当事者を負の人生の波間に陥落させ、そこから抜け出す再度のチャンスを難しくしている仕組みがあるからこそ、ケースごとに対応した自立支援システムの発動が求められる。

第三の特徴は、この自立支援システムが始めから有効に作動しつづけるには、自立支援を必要とする当事者、行政、民間ボランティアやNPO団体の三者それぞれの長短を生かした有機的な組み合わせが前提になっていることの指摘にある。この指摘は実際の経験にもとづいているゆえに説得力をもっている。当事者の自立に必要な条件は実に多様である。行政は機構としてこの多様性に応える利点と短所をもっている。民間のボランティアやNPO団体は、そこに生じる隙間を必要な社会資源をもって適切に埋め合わせる臨機応変な対応を行う。主客三様の有機的な実相を統計で表示し、豊富な経験を分析図に取りまとめ、ホームレス研究上の問題点を順序よく整理して普遍化を試み、人間工学的といってよい問題解法によって現時点の研究水準を一段と高める貢献を行っている。この貢献は、ホームレス研究の今後に強固な足場を提供しているのである。

第四の特徴は、自立支援システムの重要な一翼を担うNPO団体の事例として「ふるさと

の会」の活動歴にふれ、組織化過程を具体例に従ってフォローして、事実即した社会運動体の形成過程を辿れるところにある。ネットワークがつくれ、それが「ネットワーク」(knotwork)となり、ホームレス自立支援システムを構築していく有様を記述し、体験と経験の一般化を行い、学術上の貢献を行っているとは評価できるのである。

第五の特徴は、ホームレス問題は、現実であるけれども非日常であるゆえに、HIV やマイノリティ、同性愛などと並んで想像力を試すテーマであるところにある。ホームレスの個人史を掘り起こし、それらを個別のケースにとどめず、時代層に照らして一般化への通路を切り拓く論理を展開しているところに、暖かい想像力と冷徹な分析眼が生かされている。ホームレス問題とは住居問題の別称である。不安定居住の住宅問題自体人権の視点から適切な住宅政策を展開してこなかった公共政策形成を問うているのであって、この問いの構造こそ家庭の破綻、アウトロー的生活、不安定就業、居場所喪失、ホームレス化のジェンダーバイアスなどを逆照射している。

本論文のこれらの特徴は、本論文の評価しうる特質の現れであり、本論文の学術的完成度を見事に演出している。本審査委員会はこのことをもって、申請者に博士(人間科学)の学位を授与するに値すると判定するに至った。

#### 4 . 麦倉 哲氏 博士学位申請論文審査委員会

主任審査員 早稲田大学教授 博士(人間科学)(早稲田大学) 店田 廣文

審査員 早稲田大学名誉教授 博士(人間科学)(早稲田大学) 嵯峨座晴夫

審査員 早稲田大学名誉教授 文学博士(早稲田大学) 濱口 晴彦